

県内復興・経済日誌（2016年9月）

1日

《「アフターDC（4月～6月）」、観光客約1,308万人》

4月から6月まで繰り上げられた「アフターデスティネーションキャンペーン（DC）」期間中の観光客入り込み数（速報値）が、福島市で開かれた県観光復興キャンペーン委員会の総会において発表された。同期間の観光客入り込み数は13,081,721人で、前年同期と比べ239,946人減少した。

2日

《アンフィニ（大阪市）、檜葉町と立地協定》

檜葉町は、発電事業などを行うアンフィニと同町役場で立地協定を結んだ。同社は、檜葉町下繁岡の工業用地（約31,000平方メートル）に福島工場を建設する。年間で10万キロワット以上に相当する太陽光発電パネルを生産する予定。建物は鉄骨造り2階建て、延べ床面積約1万7千平方メートル。総工費は75億円。

6日

《相馬中核工業団地内に県の水産種苗研究・生産施設起工》

県は、相馬市と新地町にまたがる相馬中核工業団地内に整備する水産種苗研究・生産施設の起工式を現地で行った。同施設は、相馬共同火力発電新地発電所（新地町）に近く、火力発電所の温排水を利用し、ヒラメ、アワビ、アユの種苗を育成し、本県沖などに放流する。総事業費は約89億円、国の復興交付金を活用する。

11日

《東北中央自動車道、福島JCT－大笹生IC間が開通》

東北中央自動車道の福島ジャンクション（JCT）－福島大笹生インターチェンジ（IC）間が供用を開始した。開通式が福島市の福島大笹生IC付近で行われた。開通区間は東北自動車道につながる1.4kmで、福島市西部地区への交

通アクセスが向上し、観光やスポーツ振興、企業誘致に弾みがつくと期待されている。平成29年度には米沢北ICまで延長される予定。

13日

《心臓外科手術トレーニングシステム拠点、福島市に開所》

医療用機器の開発・製造業イービーエム（東京都）が福島市野田町に建設した心臓外科手術トレーニングシステムの拠点施設である「イービーエムふくしま製造開発センターFIST」の開所式が、現地で行われた。外科手術のトレーニング環境の提供や血流解析ソフトウェアの開発などを進める。県の福島医療・福祉機器開発・事業化事業費補助金を活用した。

14日

《ふくしま未来研究会など3社、再生可能エネルギー共同開発合意》

ふくしま未来研究会（福島市）、信夫山福島電力（福島市）およびジャパン・リニューアブル・エナジー（東京都）は、再生可能エネルギーの共同開発合意書を締結した。県内での太陽光や風力の発電所建設を共同で進める。3社は、県南地方に太陽光発電所2カ所（発電量合計約10万キロワット）、県北地方に風力発電所1カ所（同約3万キロワット）の建設を計画している。今後、太陽光、風力をはじめ、小水力、バイオマスなどの発電所建設に取り組んでいく。

15日

《中間貯蔵施設、双葉町郡山地区に整備》

原発事故の除染廃棄物を保管する中間貯蔵施設整備において、環境省は双葉町の郡山地区で受け入れ・分別施設と土壌貯蔵施設の建設工事を始める。いわき市で開かれた双葉町議会全員協議会にて表明した。地権者と契約がまとまった約7ヘクタールのうち、約2ヘクタールに受け入れ・分別施設、約5ヘクタールに土壌貯蔵施設を建設する。施設の具体的な場所が示され

たのは建設予定地の大熊町、双葉町の両町で初めて。

16日

《会津美里町に東北最大級の米備蓄倉庫が竣工》

全国農業協同組合連合会（全農）が会津美里町に整備していた米備蓄用低温倉庫「ふくしまの米」会津広域連合集出荷施設の竣工式が、同町の高田工業団地で行われた。施設は鉄筋平屋で延べ床面積7,787平方メートル。収容量は9,767トン、年間2万4,500トンを扱う。低温倉庫5室、放射性物質検査場などがあり、会津管内の老朽化する倉庫の米を集約する。愛称は「うまいぞう美米蔵」に決まった。

17日

《富岡町での準備宿泊開始》

原発事故で全町避難が続く富岡町で、帰還に向けた準備宿泊が始まった。準備宿泊を事前登録していた59世帯123人のうち、初日は18世帯31人が準備宿泊の手続きをした。町は町内の居住制限、避難指示解除準備両区域について、平成29年4月の避難指示解除を目指している。

20日

《地価調査、県内の住宅地が上昇率全国2位》

県は、今年7月1日時点の地価調査結果を発表した。県内の住宅地は前年比変動率が県平均で1.5%増加と、全都道府県で沖縄県に次いで2番目に高い上昇率であった。市町村別に上昇率をみると、いわき市が5.3%増加と最も高かった。

《県内の新規就農者が過去最多》

県は、昨年5月から1年間の新規就農者数が前年度比26人増加し過去最多の238人となったと発表した。震災後大きく減少していた自営による就農は123人と震災前の水準に回復した。農業法人などの雇用による就農者数は115人と2年連続で100人を超えた。女性の新規就農者数は前年度比6人増加し61人であった。

23日

《福島市、フランスの芸術家兄弟が「巨大壁画」制作》

世界各地でカラフルな作品を制作しているフ

ランスの芸術家兄弟「バーディ・キッズ」による巨大壁画が福島市児童公園わきの旧児童文化センターに描かれ、現地で式典が行われた。壁画は、同センター東側の高さ19メートル、横17メートルの壁に福島の花やペンギンなどの動物をモチーフにして描かれた。

28日

《産学官連携で初の薬事承認、骨再生促進シートを開発》

福島県立医科大学と林精器製造（須賀川市）などは、歯の根を支える骨（しろうこつ歯槽骨）の再生を促進する医療用のチタン製シートを共同開発したと発表した。同大学が保有する膨大な医療データと、県内企業が誇るものづくり技術を結実させ、従来品より短期で形の整った歯槽骨の再生を可能とした。県内の産学官連携による製品で国の薬事承認が初めて得られた。平成29年1月に販売を開始する。

《災害時の危機管理専用拠点「福島県危機管理センター」開所》

災害発生時における県の新たな危機管理拠点となる「福島県危機管理センター」が、県庁北庁舎に開所した。震災と原発事故の教訓を生かし、災害対策本部用の会議室を常設したほか、通信設備を多重化し、大規模災害などへの対応力向上を図った。危機管理専用の拠点施設が整備されるのは東北6県で初めてとなる。

29日

《県内に世界最大規模の水素エネルギーシステム構築》

東芝、東北電力および液化石油ガス（LPG）大手の岩谷産業は、福島県内に設置する最大1万キロワット級の水素製造装置で水素を製造し、電力システムの安定運用に貢献するシステムの開発に乗り出すと発表した。製造した水素は水素発電装置により電力システムの調整力として活用するほか、液化し東北エリア内外へ供給することを想定している。